



# 秀峰通信

平成29年春号 No.71  
社会福祉法人 秀峰会  
〔理念〕  
1. 人間が主体である  
2. 連帯の輪を無限に広げていく  
3. 日に日に新たな今日を創造していく

## ひとり暮らしのおじいさん

月・水・金のヘルパーさんが調理やゴミだしをしてくれる。優しいし、気が利くので助かるよ。

火曜と土曜のデイサービスも友達が5人もできたから楽しみだよ。

緊急コールを付けたから1人でも安心。夜中でもすぐに駆けつけてくれたよ。



社会福祉法人 秀峰会  
訪問介護サービス事業部 部長 遠藤 賀奈子

住み慣れた我が家でいつまでも暮らしたい。誰もが思うこの気持ちに寄り添い、実現のお手伝いをさせて頂くのが、在宅サービスに関わる秀峰会のスタッフです。

日常生活全般を支える訪問介護、医療的ケアが必要な方を支える訪問看護、人との関わり・楽しい時間を共有できる通所介護等、在宅サービスには様々な種類があります。そして、それらのサービスを、おひとり住まいの方であっても不安なく生活できるよう、利用される方に合わせて組み合わせ、計画するのが介護支援専門員（ケアマネジャー）です。

「一人でトイレに行けなくなったら」「何の薬をいつ飲めばいいのかわからなくて」日常生活を送る上で困る事・心配な事：様々ありますよね。そんな時は私たちのことを思い出してください。介護が必要になっても、誰もが安心して在宅生活を送れることを大切に、私たちはいつもご利用者とともにあります。

誰もが安心して暮らせることを大切に



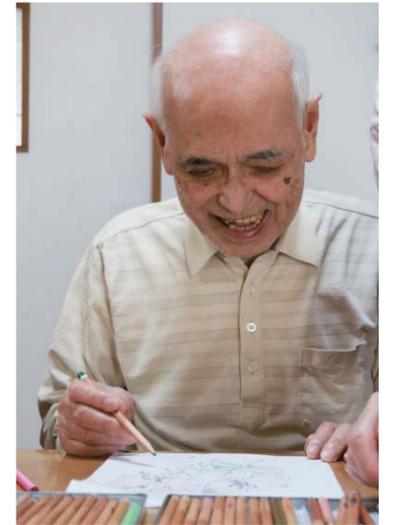
## 「ぬりえ」を使った自己表現活動

秀峰会で20年続いている自己表現活動です

カラーバード 主宰 久保 みより



【ぬりえと画材】を持ち、1996年12月「特別養護老人ホーム さくら苑」に伺い始めてから、今では秀峰会での活動の場が7か所になりました。月に1度の和やかなひと時をご一緒させて頂いています。



上手にぬることが目的ではなく、むしろぬっているプロセスを大切にしています。色をぬっている時、お年寄りの皆様は実に様々な表情を見せられます。色には記憶を蘇らせる作用があるのです。こんな紫色の着物を母が着ていた。初恋の人が採ってくれたアケビの実の色だ、と。毎回、鳥の木のモチーフばかり選ぶ男性は、バードウォッチングが趣味でした。良く使われる色にはその方の大切な思いが込められているものです。

普段カラフルな色使いをする方が体調を壊し、黒1色しか使われない事もあります。使っている色でお話をしているのだと考えて頂ければと思います。例えば1色でも1カ所でも、だからこそ伝わる思いがあります。ですから、できるだけご自分で色を選んで頂くようお願いしています。「色は心を語るもう一つの言葉」なのです。

